

Slovenia Monthly February 2020

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2020年3月11日



～2月の主なポイント～

内政： パホル大統領、ヤンシャ民主党党首を首相候補に指名
外政： パホル大統領、クロアチアの新大統領と会談
経済： スロベニア・ビジネスミッションの訪日
治安： クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号：スロベニア人乗客全員が帰国
不法入国者数、前年比74%増

政治

【新政権樹立に向けた動き】

●パホル大統領と各政党院内総務との協議 (4日～6日)

パホル大統領は、議会に議席を有する各政党の院内総務と協議を行った。協議後、パホル大統領は、選挙を含めたすべての選択肢が残っていると述べ、もし各党での連立合意がまとまるようであれば、2月中に再度各党と協議を行う可能性もあると述べた。

7日、民主党(SDS)は、現代中央党(SMC)、新スロベニア(NSi)、年金者党(DeSUS)と連立形成に向けた協議を開始した。

●4政党による連立合意(25日)

25日、SDSのクリヴェツ院内総務は、SDS、SMC、NSi、DeSUSの4党が連立に合意し、SDSはパホル大統領に対して、ヤンシャ党首を首相候補に指名する提案を行ったと述べた。

●パホル大統領、ヤンシャSDS党首を首相候補に指名(26日)

26日、パホル大統領は、SDS、SMC、NSi、DeSUSの4政党が連立合意に達したことを受け、ヤンシャSDS党首を首相候補に指名した。ヤンシャ候補は、

次期総選挙までの約2年半の間にすべての目標を達成することは困難であるとしつつ、連立合意に達したことは4政党が妥協案を模索し、スロベニアが直面する喫緊の課題に対処する用意があることを示していると述べた。一方、パホル大統領は、本年1月のシャレツ首相辞任後の政治的に不安定な時期がこのように短期間となったことは喜ばしいと述べたほか、大統領として政府と協力していくことを約束するとして、この協力関係が国及び国民の利益のためとなり、建設的となることを望むと述べた。なお、大統領により首相候補に指名されたヤンシャ党首は、今後、議会により首相候補として承認されれば、組閣のマンデートが与えられることになる。(注：3月3日、国民議会はヤンシャ候補を承認し、同候補に組閣マンデートが与えられた)



パホル大統領(左)とヤンシャSDS党首(右)
(Photo: Daniel Novakovič/STA)

【内政一般】

●SAB副党首が離党【3日】

3日、アレンカ・ブラトゥシェク同盟（SAB）のプリッチ副党首は、党を離党した旨明らかにした。プリッチ副党首は、党に対する信頼及び尊敬を以前から失っていたと離党の理由を説明しつつ、今後、他の政党に合流する意思はないと述べ、SABの今後の成功を願うと述べた。プリッチ副党首の離党に関し、パウリッチSAB幹事長は、プリッチ氏は昨年9月に開発・戦略事業・結束担当大臣の座を辞任した後、党内でも活動をほとんど行っていないため離党は驚きではないと述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●年金者党党首への脅迫状【6日、7日】

6日、ピヴェツ年金者党（DeSUS）党首は、テレビ局の取材に対し、脅迫状を受け取ったことを明らかにした。ピヴェツ党首は、捜査・安全上の理由から詳細は明らかにしなかったものの、報道によると、脅迫状にはDeSUSが民主党（SDS）と連立に合意する場合には同党首の命が脅かされることになる旨の記載があったとのこと。

また、7日にはアレンカ・ブラトゥシェク同盟（SAB）のブラトゥシェク党首が、党本部に粉の入った差出人不明の小包が届けられたことを明らかにした。なお、検査の結果、粉は無害であることが判明した。

●現代中央党副党首が離党を表明【10日】

10日、労働・家族・社会問題・機会均等大臣を務める現代中央党（SMC）のクランプフェル副党首は、副党首の座からの辞任及び離党を表明した。同副首相の離党は、SMCが中道右派の民主党（SDS）と連立協議を行っていることに抗議の意を示したもので、同副党首は、ポチヴァルシェクSMC党首宛の書簡において「ポチヴァルシェク党首が指揮を執る現在の党は、気高い社会自由主義的価値を党にもたらした人々の考えから徐々に逸脱している。副党首でありながら、自分は党の活動に関わることを認められず、その点についてはなんとか納得しようとしたが、（SDSとの連立協議という）現在起こっていることを容認することはできない」と述べた。

【外政】

●ツェラル外相のトルコ訪問【10日～11日】

ツェラル外相はトルコを訪問し、10日、チャヴシュオール外相と会談を行った。両者は、2011年に両国が署名した戦略的パートナーシップに基づき、経済分野をはじめとした二国間関係促進について意見交換を行ったほか、移民問題、中東情勢、西バルカン情勢、EU・トルコ関係等についても議論した。ツェラル外相は、トルコは不法移民対策における重要なパートナーであるとして、EU・トルコ間の信頼強化を呼びかけたほか、法の支配、人権を含むEU基準を満たすとの条件でトルコのEU加盟を支持すると述べた。

11日、ツェラル外相は、イスタンブールで開催された両国のビジネス会合に出席した。同会合において、ツェラル外相は、このような会合の開催は、両国の企業関係者に商談を行う機会を与え、両国経済をつなぐ最良の方法であると述べた。なお、同会合では、スロベニアのエアドーム製造企業Duol社がイスタンブールのスポーツアリーナ設置に関する契約に合意したほか、ブレッド市が観光PRを行った。

●グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領のスロベニア訪問【12日】

12日、大統領選挙に敗北し退任が決まっているクロアチアのグラバル＝キタロビッチ大統領がスロベニアを訪問し、パホル大統領と会談した。パホル大統領は、スロベニアとクロアチアは友好的関係にある隣国であり、グラバル＝キタロビッチ大統領の最後の外遊先がスロベニアになったことは決して偶然ではないと述べたほか、今回が両者の39回目の会談であり、クロアチアによる国境画定に関する仲裁裁判からの一方的離脱後も、我々是对話を続け、両国及び両国民の架け橋となるよう努力してきたと述べた。グラバル＝キタロビッチ大統領は、スロベニアとの友好関係を常に重視してきた自分にとって、スロベニアを最後の訪問先に選んだのは当然であると述べ、両国の絆は、未解決の問題よりもはるかに強いものであると述べた。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●ツェラル外相、スウェーデンを訪問【21日、22日】

ツェラル外相はスウェーデンを訪問し、リンデ外相と会談を行った。ツェラル外相は、スロベニアとスウェーデンは、法の支配、人権の尊重、多国間協調主義等を重視しており、価値を共有していると述べたほか、スロベニアのEU議長国就任に向けた準備状況を説明し、協力を要請した。両外相は、西バルカン諸国のEU加盟に向けた取組についても意見交換を行い、現在スウェーデンも支援するITFを通じた事業についても言及した。そのほか、両外相は、EU・中国関係、EU・ロシア関係及び気候変動に関連した北極地域での対策等について意見交換を行った。なお、ツェラル外相は、滞在中、ノーレン議会議長への表敬、ストックホルムのスマートシティ事業を実施する施設の視察、在スウェーデン・スロベニア人コミュニティ代表者との意見交換等を行った。



(Photo: スロベニア外務省)

●ツェラル外相、西バルカン関連ハイレベル会合に出席【24日】

ツェラル外相は、ギリシャのテッサロニキで開催された「テッサロニキからザグレブへ」と題した西バルカン諸国のEU加盟プロセスに関するハイレベル会合に参加した。同会合には、EU高官のほか、EU加盟を目指す各国及び近隣のEU加盟国（ギリシャ、スロベニア、ブルガリア、クロアチア、イタリア、ルーマニア）の外相等が参加した。ツェラル外相は、同会合において、法の支配、汚職・組織犯罪対策をはじめとする改革の必要性を強調しつつ、改革はEU拡大プロセスと同時並行的に行われることが重要であるとの見解を述べた。また、同外相は、西バルカン諸国へのEU拡大は戦略地政学的に重要であると述べ、EUは北マケドニア及びアルバニアとの加盟交渉を早急に開始すべきであると述べた。

●パホル大統領、クロアチアの新大統領と会談【27日】

パホル大統領は、スロベニアを訪問したミラノビッチ・クロアチア大統領と会談を行った。ミラノビッチ大統領は2月18日に大統領就任式を行ったばかりで、

今回が同大統領就任後初のパホル大統領との会談となった。両者は、両国間の課題について解決を図っていくとの見解で一致した。クロアチアのシェンゲン協定への加盟について、パホル大統領は、クロアチアの加盟はスロベニアの国益にかなう一方で、クロアチアによる両国間の国境画定問題に関する仲裁裁定の受入れ拒否は、スロベニアの投票態度に影響しかねないと述べた。これに対し、ミラノビッチ大統領は、クロアチアの加盟は、シェンゲンの対外国境をクロアチア・ボスニアヘルツェゴビナ(BH)間の国境へと移すため、スロベニアが最も恩恵を受けることになると主張したほか、国境画定問題に関して、両国は引き続き話し合いを行っていく必要があると述べた。



(Photo: 大統領府, Daniel Novakovič)

スロベニア・ビジネスミッションの訪日

2月3日～6日、カンタルティ経済開発・技術副大臣率いるビジネスミッションが訪日しました。訪日に関する同省プレスリリースの概要は以下のとおりです。

初日、一行は、スロベニアに進出する日本企業との関係強化を目的として、安川電機、関西ペイント（スロベニア企業ヘリオスの親会社）及びダイヘン（スロベニア企業ダイヘン・ヴァストロイ社の親会社）を訪問しました。各社代表と会談したカンタルティ副大臣は、これまでのスロベニアにおける各企業の活動に満足の意を表し、今後の更なる事業展開に期待を示すとともに、各社代表をオリンピック期間中のスロベニアハウスに招待しました。



5日、スロベニア経済開発・技術省は、JETRO、在京スロベニア大使館、スロベニア投資庁（SPIRIT）の協力の下、スロベニア・日本ビジネスセミナーを開催し、同セミナーには100社以上の日本企業が参加しました。セミナーの目的は、日本企業に対して、スロベニアのビジネス・投資環境及びスロベニアのEU議長国期間中の優先事項のひとつである「Society5.0」に関するスロベニアの計画の紹介で、セミナー後、カンタルティ副大臣は、「セミナーでは、「Society5.0」の可能性に焦点が当てられた。「Industry4.0」ですでに使用されているAI、IoT、ロボティクスのようなコンセプトは、近々、日常生活にとって極めて重要なものになるであろう。日本とは良好な協力関係を築いており、我々は（日本との）共通の知識や「Society5.0」という概念をEUにも広げることができる。これはスロベニアの発展にも資するものである。」と述べました。

また、カンタルティ副大臣は、牧原経済産業副大臣、長谷川総理大臣補佐官等の日本政府要人とも会談を行いました。



訪日の最後には、経済開発・技術省がプロジェクトで協力するNEDO及び日立との会談を行いました。同プロジェクトは、スマートグリッドに関連する3年間のプロジェクトで、ELES社及びスロベニア企業5社が関与しています。

今回の訪問では、ELES社とスロベニア・オリンピック委員会の間での、スロベニアハウスへの財政的支援に係る契約書署名が行われました。スロベニアハウスでは、オリンピック期間中、ビジネス及び観光関係のイベントが開催される予定です。署名式典において、カンタルティ副大臣は、「スポーツは、ビジネス面・経済面においても大きな力がある。経済開発・技術省は、その点をよく認識しており、オリンピック期間中にSPIRIT及び観光庁が、スロベニア経済及び観光の広報を行う様々なイベントを企画している。スロベニア企業には、日本企業との商談や関係構築のためにスロベニアハウスを活用してほしい。」と述べました。

（写真提供：JETRO）

経済

【経済一般、指標・統計】

●欧州委員会による経済予測【13日】

欧州委員会は、冬季経済予測において、スロベニアの2020年の成長予測を2.7%とし、前回予測から据え置きとした。また、2021年の予測についても2.7%とした。なお、主要機関によるスロベニアの経済成長予測は以下のとおり。

機関名(予測発表月)	2020年	2021年
欧州委員会(2月)	2.7%	2.7%
中央銀行(12月)	2.5%	2.5%
OECD(11月)	3.0%	3.1%
EBRD(11月)	2.8%	—
IMF(10月)	2.9%	2.7%
IMAD ^(注) (9月)	3.0%	2.7%

(注)IMAD—マクロ経済分析発展研究所

●ブルームバーグ・イノベーション指数、スロベニアが急上昇【22日】

大手情報サービスのブルームバーグは2020年イノベーション指数を発表し、スロベニアは73.11ポイントで、対象60か国中21位となり、前年の31位から大幅に順位を上げた。同指数は、研究開発(R&D)支出、製造能力、生産性、ハイテク企業の集中度等の7つの指標に基づき算出されるもので、スロベニアは製造能力で8位、高等教育効率性で14位と高い評価を得た。なお、ランキング1位は88.21ポイントのドイツとなり、前年まで6年連続で首位だった韓国は88.16ポイントで2位となった。3位はシンガポール(87.01)、4位はスイス(85.67)、5位はスウェーデン(85.50)となり、日本は前回より3つ順位を下げて12位(82.31)となった。



(Photo: www.sloveniatimes.com)

●政府、国家エネルギー気候計画文書を閣議決定【27日】

スロベニア政府は、国家エネルギー気候計画文書を閣議決定した。同文書は、エネルギー同盟の5つの柱(低炭素化、エネルギー効率、エネルギー安全保障、エネルギー市場の統合、研究・イノベーション・

競争力)に関し、2030年までのスロベニアの目標、政策、措置等につき定めた戦略文書で、2030年までの主要な目標として、温室効果ガス排出量を36%削減、エネルギー効率を少なくとも35%向上、再生可能エネルギーのシェアを少なくとも27%とすること、GDPの3%を研究開発分野へ支出し、そのうちGDPの1%は公的資金で支出すること等が挙げられている。また、同文書は2030年までに段階的に石炭利用を30%削減することを目標に設定しており、プラトゥシェク・インフラ大臣は、「この期間に、ショシュタニ火力発電所第5ブロックを閉鎖し、リュブリャナ(火力発電所)への外国産石炭の輸入を停止する。」と述べた。なお、政府は2021年末までに、石炭利用の段階的削減に係る戦略文書を採択する予定であり、ショシュタニ火力発電所第6ブロックの閉鎖時期についても設定される予定。更に、同文書は、新たな原子力の利用について検討し、2027年までにクルシュコ原発の第2原子炉(建設の可否)に係る決定を行うことを目標に設定しているほか、化石燃料に対する補助金の段階的削減及び廃止についても明記している。一方、主要な課題のひとつは水力の利用であり、プラトゥシェク大臣は、「同文書は、環境に対する影響等を考慮し、今後10年はサバ川中流に水力発電所を建設することを想定していないが、これは自然と共存する形での水力発電所の建設及び稼働を可能とする適切な解決策を模索する活動を妨げるものではない。自然保護区域における再生可能なエネルギーの利用を促進する道を見つける必要があり、気候中立社会への移行に向けて、R&Dへの投資を強化し、人材にも一層投資する必要がある。」と述べた。

●スロベニアの2019年GDP成長率:速報値【28日】

スロベニア統計局は、スロベニアの2019年GDP成長率の速報値を発表した。この速報値は各四半期のデータを基に算出したもので(quarterly method)、それによると2.4%のプラス成長となっている。統計局は、理由として輸出の伸びは2017年及び2018年よりも鈍化してものの、引き続き外需が経済成長に好影響を与えたとしている。なお、中央銀行、マクロ経済分析発展研究所(IMAD)といった機関は、2020年の経済成長に関し、新型コロナウイルスを巡る情勢により先行きが不確かとなっているとのコメントを発表した。

【企業、産業の動向】

●Gen-I社、北マケドニアで太陽光発電所建設【2日】

スロベニアの電力会社Gen-I社は、同子会社のSonce DOOEL Skopje社が北マケドニアの太陽光発電所建設計画に関する入札で勝利したと発表した。

北マケドニアのアムザベゴヴォに建設される予定の同発電所は、2021年初頭に建設工事が開始され、2023年前半に稼働が見込まれており、Gen-I社は同発電所の出力35MWのうち、17MW部分の太陽光パネルを設置する予定。

●欧州中央銀行、マリボル信用銀行によるアバンカ銀行株取得を承認【3日】

スロベニア中央銀行は、欧州中央銀行が米国ファンドのアポロ（Apollo）が所有するマリボル信用銀行（NKBM）によるアバンカ銀行株取得を承認した旨を発表した。アバンカ銀行民営化は、スロベニア政府と欧州委員会の間で取り決められていたもので、昨年6月に、政府保有のアバンカ株をNKBMに売却することが決定されていた。なお、報道によると米国ファンドのアポロは、アバンカ銀行とNKBMを合併し、数年以内に売却する見込み。

●ショシュタニ石炭火力発電所第6ブロック、耐用年数期限前に閉鎖の可能性【15日】

国営電力会社HSE社のニコリッチ会長は、日刊紙ドネウニク紙のインタビューにおいて、ショシュタニ石炭火力発電所第6ブロックは、耐用年数に達する2054年の前に閉鎖されることを示唆した。同会長は、その理由として、同発電所近郊のヴェレニェ鉱山が2045年以降に存続する可能性は低いことを挙げ、石炭の輸入はよりコストがかかるため、それ以降もショシュタニ石炭火力発電所を稼働させることは賢明ではないだろうと述べた。ニコリッチ会長によると、エネルギー燃料の高騰により、ショシュタニ石炭火力発電所は、昨年に約2000万ユーロ、その前年は約600万ユーロの損失を出している。

●マリボル空港運営企業、損害賠償請求の意向【25日】

中国資本「SHS Aviation」社が所有するマリボル空港運営企業「Aerodrom Maribor」社は、マリボル空港に関する政府とのリース契約期間に支払ってきたリース料、そのほかのコスト及び失われた利益として、政府に対して210万ユーロの損害賠償を求める旨のプレスリリースを発表した。同社は、政府が土地の区画計画の導入に二の足を踏んだために滑走路の延長が遅延し、また、リース契約終了後、政府が同社の所有地を不法に利用し続けたと主張しているほか、同社は、最近公開された官民パートナーシップの募集において、関連の区画法案が準備されているとして投資家を騙していると政府を非難した。これに対し、ブラトゥシェク・インフラ大臣は、ひとまずの見解として、原告の訴えが通る可能性はないと述べた。同大臣は、リース料の支払いを止め、リース契約を中止したのは

同社のほうであり、インフラ省は契約条項を全て守っている旨を強調した。

●新リュブリャナ銀行（NLB）、セルビア政府とコメルツィヤルナ銀行株取得に係る契約書に署名【26日】

26日、新リュブリャナ銀行（NLB）は、セルビア政府との間で、同政府が所有するコメルツィヤルナ銀行（Komercijalna banka）の株式取得に関する契約書に署名した旨を発表した。NLBによると、コメルツィヤルナ銀行株83.23%取得にかかる契約額は3億8700万ユーロであり、今後、当局の承認プロセスを経て、本年末までに取引が完了する見込み。本取引により、セルビアにおけるNLBのマーケットシェアは12.1%となり、同国において3番目に大きい銀行グループとなる。

軍事・治安情勢・危険情報

●警察官労働組合、4時間のストライキを実施【3日】

3日、警察官労働組合は、午前8時から正午までの4時間にわたるストライキを実施した。同組合は、2018年に結ばれた労使協定で約束された事項が守られていないと主張しているほか、警察組織の人員不足を指摘し、このままの状態が続けば警察組織が潰れ、十分な警備が行えなくなると主張した。なお、3日のストライキ後、同組合は、現時点でストライキをエスカレートさせる意向はなく、新政権の発足を待つとの姿勢を示している。

●不法入国数、前年比74%増【7日】

スロベニア警察当局によると、2019年に確認された不法入国数は1万6099件で、前年比74%増と急増したことが明らかになった。不法入国件数が最も多かったのはパキスタン国籍で4101件、次いでアルジェリア（1892件）、アフガニスタン（1733件）となっている。また、不法入国が最も多く確認された月は8月（2392件）で、10月（2268件）、9月（1987件）の順となっている。また、2019年の難民等による国際保護申請件数は、3821件で前年比33%増加し、一方で保護認定件数は85件で、前年の102件から減少した。



(Photo: Xinhua/STA)

【新型コロナウイルス関連】

●外務省、中国への不急の渡航延期を勧告【5日】

5日、スロベニア外務省は、新型コロナウイルスの発生を受けて、中国への不急の渡航の延期を勧告した。外務省は、隔離地域への渡航は行うべきではないとしたほか、中国発着のフライトがキャンセルされていることを指摘しつつ、感染の危険が高い地域にすでに滞在している者に対しては、最も安全な選択肢は同地を離れることであると勧告した。また、中国に滞在するスロベニア国民に対し、北京のスロベニア大使館に、滞り場所及び家族の人数を連絡する旨も同時に勧告した。

●スロベニア、マスク120万枚を中国に提供【13日】

スロベニア政府は、中国での新型コロナウイルス発生を受けて、マスク120万枚を支援物資として武漢に送付すると発表した。マスクは、中国企業が所有するKylin Prime Group (KPG) 社のスロベニア支店が寄付するもので、同社は、スロベニア外務省の呼びかけに応じマスクを寄付した。寄付されたマスクはEUの緊急援助の一部として中国に送られ、スロベニア政府は輸送費として最大2万ユーロを負担する。また、スロベニア政府は、世界保健機関(WHO)に対し、6万ユーロの緊急支援を実施することも決定した。

●政府、2月26日現在、スロベニア国内での新型コロナウイルス感染者は確認されていない旨発表【26日】

政府は、2月26日時点において、国内で新型コロナウイルスの感染者は確認されていない旨発表した。これまで、政府は感染の疑いのある59名に対して検査を実施したが、全て陰性との結果であった。(注:3月11日現在、スロベニアでは34名の感染者が確認されている)

●政府、新型コロナウイルスに係る対策措置を閣議決定【27日】

27日、政府は、近隣国で新型コロナウイルスが広がっていることを受け、スロベニアで感染事例が発生した場合に備え、対策措置を決定した。この決定においては、政府は緊急備蓄品であるマスク、医療用グローブ、靴カバー、防護服を医療従事者に配布する。シャレツ首相は、「国民を効果的に支援するためには、公務員をまず守る必要がある」と述べた。また、同首相は、近隣国との合意により、国境は引き続き開放すると述べ、イタリアの例を見ても明らかとおり、厳格な措置は、感染拡大阻止に効果がないばかりか、経済的損害をもたらすと述べ、隣国のクロアチアが国境検査を強化したことで交通渋滞が発生していると指摘し、「このような措置は効果的ではなく、国境付近での渋滞は経済的損害を与えている」と批判した。

●クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号:スロベニア人乗客全員が帰国【7日, 20日, 29日】

7日、スロベニア外務省は、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客に6名のスロベニア人がいる旨発表した。

20日、公衆衛生研究所は、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号に乗っていたスロベニア人乗客のうち、検査の結果2名に陽性反応が出た旨発表した。残り4名については陰性だったため、2名は20日時点ですでにスロベニアに帰国し、他の2名についても22日にチャーター機で帰国した。

29日、保健省は、ダイヤモンド・プリンセス号の乗客で、検査の結果、新型コロナウイルスの陽性反応が出ていたスロベニア人2名が帰国したと発表した。この二人は、検査の結果、新型コロナウイルスの陽性反応が出たため、日本の病院に搬送されたが、12日後に実施された検査で陰性となったことから帰国することが可能になったもの。保健省のボルンシェク副大臣は、この2名の健康状態は良好であり、もはやウイルスには感染していないと述べた。

令和元年度天皇誕生日祝賀レセプションの開催

2月20日、グランド・ホテル・ユニオンにおいて、令和となって初めての天皇誕生日祝賀レセプションを開催しました。

レセプション当日は、コウシュツァ国民評議会（上院）議長、ベルトンツェル副首相兼財務大臣、ペテルレ元首相、ガブロヴェツ・スロベニアオリンピック委員会委員長、当地日本企業関係者等をはじめ、400名を超える参加者がありました。



国歌斉唱

天皇陛下誕生日を祝賀し、会場には各企業・出展ブースを設置したほか、日本酒、日本食等を提供しました。また、ソプラノ歌手及び邦人琴演奏者により、両国の国家が歌唱・演奏され、会場を盛り上げていただきました。



吉田大使挨拶

吉田大使は、挨拶において、パホル大統領の訪日及び即位の礼関連式典出席、河野外務大臣（当時）のスロベニア訪問、日本スロベニア・ビジネスセミナーの開催、Society5.0セミナーの開催、ジャパン・デーの開催等、両国間の主要なイベントに関し紹介しつつ、「令和とは『美しい調和』を意味する。令和の時代に、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つことを期待する」と述べたほか、2020年は東京

オリンピック・パラリンピックが開催される年であることを紹介し、スロベニア人アスリートの活躍を祈念する旨述べました。



日本企業の紹介

また、同レセプションでは、天皇陛下誕生日を祝賀し、鏡開きによる乾杯も行われました。



鏡開きの様子



レセプションの様子

社会・文化・スポーツ

●スロベニア人研究者、甲状腺研究で活躍【13日】

スロベニア人研究者を含む国際研究チームは、甲状腺研究において画期的な発見を行った。英国及びドイツとの共同研究により、スロベニア人研究者チームは、甲状腺ホルモンのタンパク質前駆体であるヒトサイログロブリンの全体構造を特定した。ヨージェフ・ステファン研究所はプレスリリースにおいて、本研究により、甲状腺ホルモンの成長と発達に不可欠なタンパク質に関する新しい知見が得られたことで、甲状腺障害の治療に大きな影響を与えると述べたほか、ヒトサイログロブリンの全長構造に関する研究成果は、約20年間の研究と低温電子顕微鏡法の革新の結果であると述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●欧州文化都市：第一次選考結果【27日】

2025年にスロベニアの都市が欧州文化首都に指名される予定であることを受け、その選考作業が開始され、第一次選考の結果、ノヴァ・ゴリツァ、プトウイ、リュブリャナ、ピランの4都市が選考を通過し、クラン、レンダヴァの2都市が落選した。欧州文化都市専門家パネルのファリンハ議長は、このような小さいが、一方で偉大な国において6都市もの立候補があったことに良い意味で驚いていると述べた。なお、2025年欧州文化首都の最終選考結果は本年12月となる予定。

●EUに関する世論調査【28日】

スロベニアにおいて2019年11月及び12月に約1000人を対象に実施された調査によると、EUの将来に「楽観的」と回答した割合は69%で、EU平均の60%を上回っていることが明らかになった。EUにおける差し迫った課題については、移民問題(53%)、気候変動(27%)との回答が最も多く、「EUとは何か」との問いには、人・モノ・サービスの自由、単一通貨、平和との回答が多数であった。また、EUレベルでより多くの決定が下されるべきと回答した人の割合は65%で、EU平均を10%上回る結果となった。

●スロベニア男子スキージャンプ代表、W杯で2位に入賞【29日】

フィンランドのラハティで開催された男子スキージャンプ・ワールドカップにおいて、スロベニア代表チームが2位に入賞した。優勝したのは、ドイツで、3位にはオーストリアが入った。

着物デモンストレーションの開催

1月28日から31日にかけて、スロベニア5都市(コチェウイェ、スロベン・グラデツツ、リュブリャナ、ブルダ、イリルスカ・ビストリツァ)で着物のレクチャー・デモンストレーションを開催しました。

世界各国で日本の伝統的着物文化の普及に携わる、着物着付け師の今泉あいこ氏、ならびに美容師の皆様を含め総勢5名を日本からお招きし、着物や日本髪の髪結い等の紹介を行いました。着物の紹介では、説明だけでなく各地で現地の方にモデルになっていただき、着付けや帯締めの実演を行いました。イベントには、老若男女様々な方が参加し、皆カメラを片手に興味津々の様子でした。どの会場でも市民の皆様のご参加をいただき、会場は連日満席でした。



結綿を結ったスロベニア人学生



帯結びの説明

スロベニア紀行

Dober Dan（スロベニア語で「こんにちは」）！

世界のあちこちで新型コロナウイルスが流行っていますね。日本では3月初旬から中頃にかけて全国の公立学校に休校の要請が出ました。一刻も早い事態の収束を願っています。僕は3月下旬にスロベニアで今年最初のレースに出場する予定なのですが、無事にスロベニアを訪ねることができるよう願っています。



今回は、スロベニアの公共交通についてこの紀行を読んでもらっている方からリクエストをいただきましたので、簡単に紹介したいと思います。

多くの方がスロベニアに行くとしたら利用するのがリュブリャナ空港（Brnik という町にあるのでスロベニア人は Brnik という場合も）。スロベニアの中心やや北寄りに位置しており、南部以外の町はタクシーで移動が簡単です。首都リュブリャナに行く場合はタクシーなら30分もあれば着きます（20～30€程度）。エアポートシャトルも到着口にいる運転手に声をかければ、1名あたり10€程度でホテルまで送ってくれます。着いてすぐは時差もあるし、まずはこれらでホテルに行くのがとても便利。

交通の便のよくない場所に行くのを除いて、おすすめの交通機関はバスです。リュブリャナでは中央駅の前にバスターミナルがあり、主要な町へはここから発着しています。バスは観光バスのような車両になっていてバス停の名前は車内で表示されないの、近くの人に自分の行き先を予め伝えておくのと大抵教えてくれます。治安も良いし、若い人を中心に流暢に英語を操るのでスロベニアは旅行慣れしていなくても安心です。ブレッド湖などは観光客が多いのでギリギリに行くとバスに乗れないこともチラホラ。行き帰りとも時間に余裕を持って。旅する時に大切にしていることは困った時に「困った！」と周りに伝えること。言葉の上手い下手や語彙ではないです。思いをきちんと伝えることで旅の楽しみは間違いなく増えます。トラブルがないに越したことはないですが、もし何か困ったらきっと誰かが親切にしてくれます。

スロベニアが好きで様々な記事を書かせていただいています、皆さんの知りたいことを書くことでよりスロベニアに興味を持ってもらえるはず。なので、今後も記事のリクエストは大歓迎です。

紀行についてはスロベニアマンスリーが毎月発行されましたら僕は必ずSNSでシェアしていますので気軽に知りたいことをコメントもしくはメッセージしてください。僕も張り合いが出ますので！

お待ちしております。

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～19 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website.jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

●【重要】新型コロナウイルス: 今後も最新情報に留意するとともに、感染予防に努めてください。

(参考情報)

1 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2 たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3 スロベニア政府は、特設サイトを設置し、スロベニアの対応や最新状況を公開しています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

4 スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法、旅行者向けの注意点について公開しています。

<https://www.nijz.si>

5 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>